

平成二八年十一月二八日

かつて一律なりし預金金利、今や銀行により千差萬別なり。なけなし退職金の使ひ残し額、金利ほんの僅か上乘せすなるキャンペーンに踊らされ、この銀行あの銀行に移す。擧句、得したる筈の利息の差、送金手数料にも満たざるを知るは吝嗇貧乏人の悲しさにこそあれ。

金融自由化規制緩和と参入障壁撤廢は、免許事業公營企業の非効率を正し國民生活向上、國際基準達成が爲などの美名の下に進む。今や、金利、サービス各銀行にて異なり、數多の選擇肢あり。その結果は、四六時中、更に有利なる銀行を周圍に求むる性向をいつのまにやら身に帶び、氣附けば、自分の銀行を信用する氣分、衰へつ。ATM機設置數、ネット對應などの利便性に格差あらば兎も角、窓口にて預金するてふ同じ取引に、金利を競ふは無駄ならずや。資金集めたき銀行側に意味ありとしても、一般預金者にとりては、煩はしかるべき銀行はしこの誘因を提供し、落著かざる氣持を惹起せしむるのみに過ぎず。

自由化民營化の議論に反論し難き風潮蔓延して久しけれども、果して然るか。むしろ國民、過剰なる選擇肢眼前に竝べられ、迷へども、斯界の知識不足して選擇の基準乏しく、しかれども何らかの決定せざるを得ず、その判斷に自信持てず、何が無し落著かざる日日、増えたるにあらずや。

商品、業者を選擇の自由は、當今、家庭に引く電氣にまで至る。攜帶固定の電話、ネット通信の分野に於ては業者更に入り亂れ、商品價格契約體系いづれも複雑、かつ頻繁に變更ありて店頭販賣員も説明に窮する事態珍しからず。要領良く月額數千圓にてスマホを使用する若者あるに比し、店員の勧めに従ふの外なく必要性疑問のサービスを全て附加して二萬圓程も毎月支拂ふ老人を見る時、規制緩和と自由化が招きたる惡しき結末明白なり。

我思へらく、これら國民生活の基本たるインフラは、政府が強力に監督規制して然るべしと。監督を密にして各事業體に消費者第一、技術革新、効率經營を不斷に求むべし。獨占は必然的に事業體の横暴を齎す、など都合良き理屈を用ゐて、監督の役割を抛棄し、消費者の自己責任を唱ふる政府は、自らの無能を世に晒す、あるいは面倒を避けむとする怠慢なり。海外よりの壓力ありとしても斷乎はねつくるこそ政府が役目なれ。

規制緩和、自由化を金科玉條とする政策の見直しを唱へたし。ネット普及したる今日、内部告發かつてより容易、さらに事業體内部にて公益を意識する人の増加もあれば、免許事業獨占事業の弊害はかつてより除去し易しと思ふ。

天下一りポスト増加のためNTT、國鐵を組織分割民營化せるにあらず、自由化は國民生活のためと言ふなれば、今、再び國民の日日の安心平安のため規制強化、自由化撤廢に動くべし。

然もなくば、せめて世の變遷への適應能力乏しき老人に對しては、電力電話銀行等の生活インフラにつき、安全安心なる會社商品契約方法を、勇斷をもて、具體的に推薦すること政府の役割にてあれ。

(平成二八年十二月二十四日受附)